

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200160		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム・愛宕の丘		
所在地	岩手県宮古市中里団地4-11		
自己評価作成日	平成 24年 1月 20日	評価結果市町村受理日	平成 24年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	「介護サービス情報の公表」の公表後にリンクできるようにします。
----------	---------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成24年 2月 1日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、「ひとりの心を見つめるケア」を方針とし、利用者1人1人の個性や生活を尊重する支援を目指しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは平成22年12月に開設し1年目を経過した事業所である。「ひとりの心を見つめるケア」を運営方針とし、利用者それぞれの思いに耳を傾け、利用者のためにどのように支援すべきかを考えながら対応することを心掛けており、対応に先入観を持たず職員間で話し合う機会を多く作りながら対応方法を検討し個別的なケアの実践につなげている。また取り組みの一つとしてキッズヘルパーの活用を掲げ「子供の集まるところに親が集まり地域の人も集まる」の考えの下で、小中学校との連携、協力を得ながらホームを見学や慰問の対象としてだけ捉えるのではなく、認知症介護に子供たちのパワーを生かし、高齢者の話し相手やあやとり、遊び、食事などを通じて高齢者と密接に関わり、歓声をあげるだけで、傍にいただけで高齢者を和ませる展開をしたいとしており、今後が期待される。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム・愛宕の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	つなげている。	運営方針である「ひとりの心を見つめるケア」について、職員に説明する機会は無かったとしているが、利用者一人ひとりに対するより良い支援の在り方を常に考え職員間で話し合い共有することにより実践につなげている。	ホーム運営1年を経過した中で、改めて全スタッフに対し法人の理念や運営姿勢、キッズヘルパーの導入の視点など、様々話し合うことで職員間の展開手法などが明快になるものと一緒に考える。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、又職員の数名が地元で育った人間であるため近所の方々から幼なじみやお世話になった方々が暮らしている。	開設当初よりご近所へ挨拶回りを行い、ホームや認知症に対する理解を得られるよう努めている。また団地に所在しているホームであることを活かし、地域交流会の開催、AEDの設置など公共性を意識して取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今夏に地域交流会という行事を行い、地域の高齢者はもちろん小学校に通う児童を招待してみんなでバーベキューをしたり、すいか割りをして楽しんだ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方々からの介護に関する質問なども会議で出され、サービス向上に活かされている。	2つの地区の町内会長、民生委員、老人クラブの代表など地域の方が参加しており、互いに相談にのったり情報交換をすることで、ホームの運営に生かしたり地域の高齢者の状況把握につながっている。	運営推進会議は、実績報告や情報交換のほか、ホーム運営への意見、提案やホームへの協力者、応援団として支援していただくことも一考である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	取り組んでいる。	市の介護保険担当者とは運営推進会議の機会のほか、関係書類を持参する際にもホームの実情を伝え、相談や制度の確認なども円滑に行なわれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。	これまでに身体拘束につながるような事例はなく、また玄関は日中に施錠することなく利用者の活動を制限しない対応を職員間で話し合い共通認識を深めている。	職員には介護の実践経験のない方もいるなかで、施設内学習の実施や外部研修への参加等を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などにはまだ参加していないが、会議等で話題になったとき意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。	家族から食事の嗜好を教えていただき替えたり、トイレの環境改善を図ったり、情報誌の発行提言など、日常生活にかかわる貴重な意見等については迅速に対応、反映しているほか、今後も利用者・家族の意見等を大切にしたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。	ミーティングなど通じて出された意見や提案、例えば水回りの消毒の方法、買い物、勤務シフトのあり方、業務処理のマニュアル作成等、様々な意見や提案を反映しているほか、職員からの意見等の出し易い環境づくりにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開所時からの職員には、有期実習型の訓練を受けてもらいスキルアップを図った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所する前にも、他の施設を訪問したり実習も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様へのお茶出しをお願いしたり、館内の掃除や戸締りをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	利用者の幼なじみが近くに住んでおり散歩の際に会話したり、互いに行き来する関係が続いている。また、定期的に自宅(仮設住宅)へ帰ったり、家族に電話したりと利用者の希望によってそれぞれに支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	利用者との会話の中からのしたいこと・行きたい場所等の話題を業務日誌に記録し、一人ひとりの希望の把握と共有に努めており、外出支援等に反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員、家族からの意見を踏まえて作成している。	原案を各利用者の担当職員が作成し、家族の意見を踏まえて最終的に計画作成担当者と話し合い完成している。モニタリングは行っておらず、今後の課題で早急に進めたいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	医療受診は利用者・家族の希望するかかりつけ医としている。通院の際は家族の同行をお願いし、受診結果について報告を受けているほか、緊急時の場合は職員が付添い、その状況は家族にお知らせしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は該当する利用者はいないが、対応していきたい。	重度化や終末期についてホームとしての対応指針は作成しておらず、また本人家族への説明等は行なっていない。しかし今後、受入れたいとの思いがあり、重度化対応を想定して特浴を設備している。	今後、経過年数と共に重度化等も考えられることから、他ホームの取扱例を参考に、対応できること、できないことを検討しながら、指針整備を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築いている。	自主訓練を中心に避難訓練を実施している。今後は、近隣住民の支援の体制づくりに向けた話し合いが行なわれている。なお、当ホームはスプリンクラーは整備され、暖房を含めオール電化方式である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。	利用者への声掛けや言葉遣い等の在り方について、気づいた時に注意をしているほか、職員会議を通じて話し合っている。このほか、トイレや入浴支援時には他の人に見られないようプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。	当初、栄養管理を疎かにしたことで体重が増えたため、現在は、食事のカロリーの目安を計算し、又体重管理にも留意している。食事作りには食材を切ったり、米を研いだり、後片付けをしたりと利用者それぞれに役割が自然とできてきており、職員は声掛けをしながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援している。	昼夜を問わずオムツ利用者はおらず、リハビリパンツ利用者が4～5人である。トイレ排泄を基本とし、席を立ててそわそわしたり利用者の行動を把握し、トイレ誘導を行っている。また排泄記録をもとに声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	支援している。	入浴は9時から11時30分及び14時から17時までの間毎日入浴が可能で、毎日入浴する人がいるなど、利用者によりその頻度は異なっている。利用者全員が介助を必要としているが、特浴設置及び介助しやすいよう工夫されており、安心して入浴できる環境である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。	外出を希望する人は職員付き添いのもと自由に出かけることができ、散歩や買い物に出かけている。このほか多くの人で賑わう「産業まつり」に出かけるなど楽しめる場所へ出かける支援を行っている。母体がタクシー会社である強みを活かして、利用者皆で出かける機会を設けたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	2階建ての1階が生活スペースとなっており、立派な大黒柱があり風格のある作りである。作業しやすいよう台所の高さを下げる工夫をしているほか、トイレは車椅子対応を含め三か所に設置されており、利用者が使いやすいよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。	居室にはベッドとタンスが備え付けられているほか、家族写真等が飾られているが、家が近いためか、持ち込みはあまり多くなく、その中でそれぞれの思いで過ごしているとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		